

名古屋 文化情報

2016
3・4
March / April

No. 367
NAGOYA
Cultural
Information

特集 / 2015 1年をふりかえって
平成27年度名古屋市芸術賞・名古屋市民芸術祭賞



2016

3・4

March / April

Contents

名古屋市民文芸祭 受賞作品…………… 2
 2015 1年をふりかえって…………… 3
 平成27年度 名古屋市芸術賞…………… 9
 平成27年度 名古屋市民芸術祭賞…………… 10
 おしらせ…………… 12

「なごや文化情報」編集委員

- 倉知外子 (現代舞踊家)
- はせひろいち (劇作家・演出家)
- 森本悟郎 (表現研究・批評)
- 山本直子 (編集・出版 有限会社ゆいぽおと代表)
- 米田真理 (朝日大学経営学部准教授)
- 渡邊 康 (椋山女学園大学教育学部准教授)

表紙

作品

Untitled

(2015年/アクリル絵具,キャンバス/227.3×181.8 cm)

私はこれまで片思いの彼を思って絵を描いてきました。
 なので作品のほとんどが日記であり手紙であり、展覧会は愛の告白でした。
 彼が好きで、彼に知ってほしくて認めてほしくて、ただそれだけを一心に描いてきました。



名知 聡子 (なち さとこ)

- 1982年 東京都に生まれる
- 2005年 名古屋芸術大学美術学部卒業
- 2013年 About Him 小山登美夫ギャラリー・シンガポール
- 2014年 マインドフルネス! 名古屋市美術館
- 2015年 ゲンビどこでも企画公募展 旧日本銀行

「2014年 名古屋市民文芸祭」
 (第六五回名古屋短詩型文学祭) 小・中学生の部
 詩の部 受賞作品より

※受賞時の学校・学年で掲載しています。

◆市教育委員会賞◆

名古屋市立駒方中学校2年

平山 凜音

素数の気持ち

私が数学の定理を変えようとしても
 無理な話で
 この身一つで
 定理を変えられるわけがない
 人間は支えあつてできているのだ。

数学でいえば
 素数は…一人で

1は孤独だ
 人間みたいにはじかれる
 そんな数字を決めた人
 すごく残酷だ
 人間みたいによりそえない
 人間みたいに幸せをわけあえない

所詮そんな事ばかりだ
 人生なんて
 納得のいかないこと
 はじかれて苦しむこと
 隣に居た人がいなくなる
 常に一人で孤独と戦っている
 それは案外
 素数と似ているかもしれない
 所詮そんなものだ
 人生なんて

2015

1年をふりかえって

洋舞 ▶ 長谷 義隆(中日新聞放送芸能部編集委員)

2015年末、世紀の舞姫シルヴィ・ギエムが引退した。絶大な人気と圧倒的な観客動員力があるスーパースターであった。スター発掘は会場不足と並んで、バレエ、ダンス界のみならず、舞台芸術の世界が直面している大きな課題といえるだろう。

振り返って、今、国内外に通用し名古屋を代表するといえるダンサーはいるのだろうか。名古屋出身者は確かにいる。アメリカン・バレエ・シアターからヒューストン・バレエに移籍した加治屋百合子、東京・新国立劇場バレエ団プリンシパル米沢唯、コンテンポラリーダンサーの平山素子らの名前が浮かぶ。

しかし、平山を除けば、加治屋や米沢がスターの座をつかんでから地元で主演したことはない。思えば、不思議なことである。

さて、地元勢のバレエでは、名古屋の男性ダンサー陣の伸長が全体の舞台成果向上に貢献した。とくに碓氷悠太、梶田眞嗣、中弥智博、長谷川元志、市橋万樹ら男性陣が充実。彼らに続く10代から20代の若手も育ってきた。群舞も男女同数になるなど舞台に厚みが出てきたのは、よい傾向である。

創作バレエでは、シェークスピアの悲劇「ロミオとジュリエット」を題材に、市川透と川口節子が新作を発表した。芸術監督市川率いるBALLET NEXTの「ロミオとジュリエット～Misery～」は原作を換骨奪胎、和洋融合、殺陣も取り入れた物語バレエで気を吐いた。一方、川口振付の「ロミオ」は「悪戯な運命、を擬人化してみせたが、このアイデア自体に既視感があった。原作変更も中途半端だったが、ダンサーは健闘した。

井口裕之はテアトル・バレエカンパニー公演で問題作「コロッセオ」を発表。人間の殺し合いが見世物となる、今も昔も変わらない人間心理の闇を照らした。ゆかりバレエは佐多達枝振付の「カルミナ・ブラーナ」を2000年以来通算4度目の上演にして、オルフの音楽と佐多達枝の雄渾の振付が相乗して生み出される高揚感を達成した。後藤千花ステップ・ワークスバレエは「美女ヶ原」を改訂再演。錯綜する物語を視覚的にはすっきりさせたが、幽玄さが薄れたのが惜しかった。

古典バレエでは、コミカルな「コッペリア」を3団体が競った。このうち、篠原聖一を演出・振付家に起用した松岡伶子バレエ



テアトル・バレエカンパニー「コッペリア」
(撮影:岡村昌夫(テス大阪))

団はエスプリの利いた華麗な舞台。早矢仕友香と碓氷悠太が魅力的な名コンビぶりを見せた。一方、テアトル・バレエカンパニーは芸術監督深川秀夫が、欧州で喝采を浴びた往年の舞踏の片鱗を披露した。18歳の畑戸利江子は難役を存分に踊りきった。このほか、情感豊かな越智インターナショナル

バレエ「ジゼル」、岡田純奈バレエ団の軽妙な「リースの結婚」など高水準の公演が目立った。

現代舞踊では、語り、邦楽とのセッションで古事記の世界を踊り継いだ福田純子、スタジオ公演シリーズを始めた倉知可英ら中堅が健闘。ジャズダンスでは、三代舞踊団が通算6回目の欧州ツアーを成功させ、

7月に凱旋公演を開いた。振付・主演の三代真史は再演を重ねる「蜘蛛の糸」で人間の欲望を見つめ、日本人の秘めた強さを表現した「鳴門の渦潮」、大和撫子の凜とした気高さが前面に出た「剣の道」など多彩な創作を披露した。プリンシパルダンサーの乗倉奈津美が進境、作品の芯を支えた。



三代舞踊団「鳴門の渦潮」

演劇 ▶ 安住 恭子(演劇評論家)

2015年は戦後70年ということで、「戦争」をテーマにした作品が数多く上演された。名古屋市東文化小劇場と上演実行委員会共催の構成劇『ていんさぐの花』(伊藤敬演出、4月)は、沖

縄のある一族の戦争の悲劇を見つめた作品。アメリカ移民の問題もふくめたことで、いわゆる沖縄戦の悲劇には、一族の人間同士が戦地で敵対した悲惨な事実があったことも盛り込んだ。

そこには日米両国での二重三重の差別と、それゆえに差別する側により忠誠を誓うという精神構造をあぶり出し、今に続く沖縄に対する国のありようを思わせた。

また、人形劇団むすび座の井上ひさし作『父と暮せば』（木村繁演出、8月）は、人形ならではの自在な楽しさと生活感あふれる舞台に仕立て、原爆の悲劇とそれを語り継ぐ未来への伝言を力強く伝えた。劇座が上演した同じ井上の『夢の裂け目』（岡田一彦演出、7月）も、東京裁判の内実と共に我々庶民の戦争責任という問題もつきつけた。さらに、総合劇集団俳優館のリーディング『ピルマの豎琴』と『わたしは貝になりたい』（9月）のようなかつての名作や、劇団名古屋の『あの記憶の記録』（11月）のように新たに紹介された海外作品もあり、戦争と人間の多様な問題を訴えると共に、今現在各地で広がる戦争状況についても考えさせることになった。



戦争を語り継ぐ「ていんさぐの花〜うちなーんちゅ（沖縄人）とヤンキーさむらい（日系人）〜」

創作作品としては、劇団ジャブジャブサーキットのはせひろいちの活動が注目された。春公演の『さよならウィキペディア』（はせひろいち作・演出、5月）では、ネットへの依存をはじめ、人工物に取り巻かれて多くのものを見失いつつある現代を、軽やかに切り取った。秋の『乱歩からの招待状』（同、11月）は、瑞穂区の名勝東山荘を舞台に繰り広げたユニークなミステリーで、その広大な庭園と魅力的な建物をフルに使い、観客もその劇世界に巻き込んで、類のない臨場感あふれる作品になった。またはせは、名古屋市文化振興事業団主催の「プロとつくる舞台〜ホップ・ステップ・ジャンプ」の『ごんぎつね裁判』（西尾栄儀演出、1月）の脚本も担当。新美南吉の草



東山荘で上演した「乱歩からの招待状」

稿と鈴木三重吉の手の入った定本の違いを検討しながら、この童話が持つ真のテーマを提出した。それは強調されがちなごんの贖罪意識とそれゆえの悲劇性だけでなく、人間が動物を簡単に殺すことを問題視し、両者に横たわる断絶の悲劇性をも指摘。市民参加劇として分かりやすく展開した。

さらに15年は新しい才能の発見もあった。結成5年目の若手劇団room16だ。これまで小劇場で活動していたが、初めての公共ホール（千種文化小劇場）に進出した『道化ボレロ』（SABO作・演出）で、骨格のしっかりした作品を発表し、注目された。現実の影に覆われて自分の光を見失っている現代人の姿を描く作品だが、コミュニケーション不全やそれゆえの孤立社会の諸相などくり返されているテーマでありながら、その関係性を示す切り口や、ラップを多用したせりふなど斬新かつオリジナルで、強い個性と作家性を示し、今後を期待させた。

また、8月に長野県飯田市で開かれた「いいだ人形劇フェスタ」の15年のテーマが「愛知の人形劇」で、OPTの『胎児の夢〜ドグラ・マグラより』（木村繁演出）をはじめ、この地方の人形劇団が多数参加。全国の中でも先進的な活動をしていることを、広くアピールしたことも報告しておきたい。

洋楽 ▶ 早川 立大(音楽ジャーナリスト)

名古屋市中心部の栄や伏見地区だけでなく、千種区や中村区、熱田区といった地区の比較的小さなコンサートホールにおける優れた公演が話題に上るようになった。室内楽ファンにとって、悦びの多い1年だったといえよう。

〔声楽〕 創作オペラの初演が2つ。ひとつは名古屋二期会が創立45周年を記念し、総力を挙げて取り組んだ「宗春」（10月24、25日、愛知県芸術劇場大ホール）。もうひとつは名古屋

演奏家ソサエティーの「桜幻想」（5月16、17日、名古屋市芸術創造センター）だ。前者は麻創けい子台本、中田直宏作曲、西川右近演出、後者は瀧本晴都子台本・演出、森森音作曲で、どちらも規模に差はあれ、ともに新作初演らしく、両団体の情熱的な意欲が伝わる力演だった。再演には精度を高める必要がある。バリトンの岡本茂朗が主宰するエウロ・リリカの「オペラの魅力」シリーズは今年も活発好調。第23回はドニゼッティの

「アンナ・ボレーナ」など(7月18日、愛知県芸術劇場コンサートホール)、第24回はマスネの「マノン」「タイス」など(10月30、31日、名古屋市芸術創造センター)の珍しい作品を、ハイライトなどの形ながら、優れた歌唱や美しい舞台で紹介した。



エウロ・リリカ オペラ「タイス」

ソロでは中堅の活躍が際立った。バリトンの初鹿野剛(愛知県立芸術大学准教授)がシューベルトの歌曲集「冬の旅」に挑み、若々しい感情移入で清新。第10回名古屋音楽ペンクラブ賞を受賞した(2月20日、ザ・コンサートホール)。笛田博昭(テノール)と伊藤貴之(バス)のジョイント・リサイタル(8月25日、宗次ホール)、中井亮一(テノール)が登場した名古屋モーツァルト協会主催コンサート(9月14日、ザ・コンサートホール)も見事な出来栄。この3人はそろって名古屋芸術大学を卒業し、いまは東京の藤原歌劇団に所属して活躍中であり、将来が楽しみだ。

【器楽】オーケストラでは名古屋に本拠を置く4楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、セントラル愛知交響楽団、愛知室内オーケストラ、名古屋室内管弦楽団がそれぞれ身の丈いっばいの演奏を展開し、活況を呈した。2015年に生誕150年を迎えたデンマークの作曲家カール・ニルセンに光が当たったのはうれしい。名フィルが交響曲第5番を初めて取り上げた(11

月6、7日、愛知県芸術劇場コンサートホール)のをはじめ、北欧音楽を得意とする新田ユリが常任指揮者の愛知室内オーケストラも組曲やクラリネット協奏曲をプログラムにのせれば(9月26日、しらかわホール)、愛知県芸術劇場主催の「昼さがり室内楽セレクション～北欧の知られざる名曲たち～」でも、弦楽四重奏曲や木管五重奏曲が取り上げられ(10月12日、11月8日、愛知県芸術劇場大リハーサル室)、ファンを溜飲を下げた。

一方、ピアノの桑野郁子らが中心の室内楽集団アンディアーモと、愛知県立芸大の弦楽器コース教員らによるグループがそろってブラームスの室内楽作品の全曲演奏を7月からスタートさせた。アンディアーモは6年がかり全11回、県立芸大グループは2018年まで全10回の壮大な計画だ。期待が持てる。

ソロでは、2人のチェリスト、「ゼロ弾きのゴーシュ」(6月1日、宗次ホール)とリサイタル(6月13日、フィオーレ)で円熟を極めた天野武子と、R・シュトラウスのチェロ・ソナタなどで真摯な秀演を聴かせた気鋭の中木健二(9月27日、宗次ホール)、ピアノでは5/Rホール&ギャラリーの開館5周年記念リサイタルにおいてギロックの「叙情小曲集」などを音楽性豊かに表現したベテラン伊藤仁美(12月13、17日)を挙げる。



伊藤仁美ピアノリサイタル

能楽 ▶ 竹尾 邦太郎(能楽評論家)

1月、新春恒例『名古屋能楽堂正月特別公演』「翁」は久田勘鷗、宗家はともかく度々「翁」を勤め得る至福は、恙無く晴れやかな翁舞に目出度く千秋萬歳を寿ぐ。

『名古屋宝生会定式能』は画幅の主題になる虎溪三笑を脚色の稀曲「三笑」。廬山は虎溪に隠棲の慧遠禅師(シテ竹内澄子)、徒弟(子方 片桐賢)に案内されて来訪の知友は詩人に道士(ツレ陶淵明、陸修静)、歎を尽し「楽」を相舞の御機嫌。ツレに付き添われ酔歩満蹕のシテはもはや溪を渡ることあるまじと自ら課した結果をうっかり破り三者一斉に呵々大笑。シテ・ツレは共に直面、唐帽子のシテが役に適い

出色。他流には出ない子方が珍しい。

2月『名古屋観世会定例公演能』は世智に疎い智(シテ井上松次郎)の「口真似智」。智入作法は全て舅の言行通りに、と間かされ舅宅へ。舅が太郎冠者(アド野村又三郎)に用を申し付ければシテも同様に。憤慨した舅がアドを突き飛ばせば今度も同様。埒が明かす舅は「呆れもせぬ事ちゃ」と入ってしまう。予想外の展開に途惑うアドに、おかしいとも思わず律義にやり続けるシテの稚気が如何にも。

5月『名古屋能楽堂五月定例公演』「雲林院」当世風に言えば『伊勢物語』のオタク芦屋公光(ワキ飯富雅介)、霊夢を

得て花の雲林院で老翁(実八業平ノ霊シテ 長田 駿)に会う。業平・二条ノ後の逢引は此処とワキ、正夢ならんか、と訪ねた主旨老翁に話せば、老翁はその夢に感応、伊勢物語の秘事伝授の心、夢の続きを持たれよ、と。後場は殿上人の装いで業平ノ霊(後シテ駿)、「降るは春雨か落つるは涙か」と秘めた恋のしめやかな風情しつとりと老練ぶりを見せる。

『第58回狂言やるまい会』「木六駄」野村又三郎。「蠟燭の灯りで楽しむ能狂言」と謳うが、卒直にいて行灯の明りの中、雪中12頭の牛を牽いて往く太郎冠者の動静をみるのは無理。やっと辿り着く峠、茶屋(アド奥津健太郎)の、燗つける間も惜しい逸る太郎冠者、「酒は切らした」とあっさり言われ大仰な失望落胆、主(アド野村信朗)から伯父にと托された角樽ゆえに開く段の徒ならぬためらい、等々持ち味をみせる。

6月『名古屋宝生会定式能』「藤」内藤飛能。盛りの藤を愛でる旅僧(ワキ高安勝久)里女(後に藤ノ精)と出遇い古歌問答、里女は素姓仄めかし消える。後場、匂う様な姿で現れる藤ノ精は仏縁を喜び、晩春の情趣弱やかに美しく舞い進境をみせる。

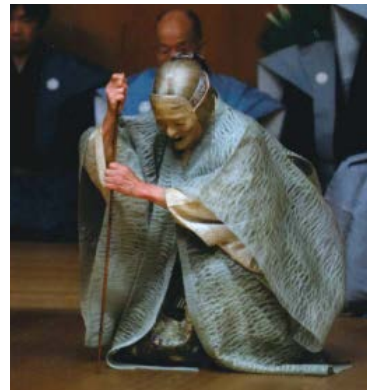
7月『第16回御酒落名匠狂言会』「縄綱」佐藤友彦。博奕のかたにシテを口上で無く敢て文にし何某(アド今枝郁雄)へ遣る主。水臭い仕打に悉くアドに反発のシテは持て余さ



第16回御酒落名匠狂言会「縄綱」
左より今枝郁雄(アド)、佐藤友彦(シテ)
(撮影:能楽写真家協会 杉浦賢次)

れ戻されるが、そこに主とアドの謀。主に縄尻取らせシテが得意の縄を縛ううち、主がアドと入れ替るのも知らず、シテはアドの小童達の喧しさを、不細工な妻女の立居など得々と喋り、むさい幼童がニコニコ笑うのを見れば腹を立て「太腿をふつりと抓ったれば泣くまい事か」と仕方話に熱くなる所など腹癒せのパワーハラスメントは幼児虐待。坊主憎けりや袈裟まで、の後味、宜しくないがシテ熱演、この後の展開思われ無気味。

11月『幸謡会』「鸚鵡小町」近藤幸江。勅使(ワキ福王和幸)から帝の歌を賜わる流離の老小町、歌には歌で応える習い、歌の作法は鸚鵡返シの応え、不審のワキにそれを説く。ワキの求めて業平法楽ノ舞を做うシテ、杖を頼りに立ち上がる気力の充実は、八十路超えて挑む深奥の老女物、凄み覚える程の迫力だった。



幸謡会「鸚鵡小町」近藤幸江
(撮影:能楽写真家協会 杉浦賢次)

年間通し舞台支えるワキ方高安流の活躍大。朗報は小鼓方幸清流 後藤嘉津幸氏(46)の名古屋市芸術奨励賞受賞、悲報は観世九皐会 高橋瞭一氏(享年79)死去、謹んで御冥福をお祈りする。

邦舞・邦楽 北島 徹也(CBC テレビ 音楽祭・イベント事業部 専任部長)

御園座の柿落しへ向けて、流派を問わず地元の舞踊家、演奏家などで構成された「御園座を盛り上げ隊・勝手連」が2回目の公演(3/15 居東屋)を催した。長唄『雪月花』(工藤寿々弥、五條園美、花柳朱実)など、また、3回目の公演(9/13 市民会館)は清元『雁金』(工藤寿々弥)、長唄『多摩川』(五條園美、山村奈乃)など、最後に『深川マンボ』(全員)で大いに盛り上げ、熱いエールを送った。

西川流は「名古屋をどり」(9/2～6 中日劇場)、千雅が四世家元を継承して初の主宰公演は新家元のプロデュース感覚が溢れた。劇場ロビーは江戸時代をイメージした空間となり、公演は、舞妓姿の名古屋嬢、たちで幕明き、千雅は義太夫『寿三番叟』と右近の与右衛門で清元『かさね』を踊ったが、悲喜こもごもの舞踊劇『仇ゆめ』が傑作、飄逸味があった。

また名妓連と岐阜芸妓組合がお座敷芸を見せ、三部制それぞれ2時間弱、イヤホンガイドなど日本舞踊を一度も見たことのない人にも楽しんでもらえるよう工夫がうかがえた。守るべきと変えていくものの仕分け、さまざまなエンターテインメントが列立する現代において、日本舞踊をまず認めてもらいたいとの意欲と模索を見た。西川古都の「若竹会」で驚いたの

は弟子たちの達者さ、古都は特別出演の市川笑三郎と清元『おさん茂兵衛』で哀れさを、長唄『俄獅子』を機嫌良く踊り(3/28 市民会館)、西川好弥は作・演出のオペラ『葛の葉』、また短歌や俳句を詞章にしたイメージを踊った(4/11 市民会館)。西川真乃女は夫婦愛を描いた常磐津『むらぎも杖』、新作長唄『名古屋まつり』では戦前の名古屋の祭礼を素踊りで見せた(4/29 市民会館)。西川菊次郎は長唄『楊貴妃』で今年も艶やかな風姿で圧倒、長唄『多摩川』の的確な振りと柔らかさも彼ならではの(11/29 中日劇場)。名妓連の芸舞妓も日頃の修練を河文座(5/20、21 河文)で見せた。

花柳流・花柳朱実は長唄『君が代松竹梅』でしっかりした風格、花柳衛宗と花柳政貴世は清元『峠の万歳』で肩の力を抜いたベテランの芸、ちょっととぼけた味わいがいつもながらの佳作(9/13 市民会館)。

稲垣流は、稲垣友紀子が静かな気迫で表現した長唄『楠公』と長唄「二人椀久」の松山で出演し品があった。名も懐かしき山路曜生の娘 山路遊子が踊った長唄『まがしよ』の洒脱ななかの確かさが良い。稲垣舞比の長唄『操り三番叟』はいつもながらキビキビとして、ナンバを強調した人形振りなどその

期待を裏切らなかつた(12/27 国際会議場)。

上方舞の山村楽乃は、「座敷舞の会」で名古屋市民芸術祭2015に参加、地唄『虫の音』、地唄『八島』でしっとりとした風情、長唄『蛙』では巧者・西川えつが楽乃を引き立てた(11/14 名古屋能楽堂)。

芝千桜は「芝の会」(4/12 市民会館)で六回の早変わり、新内の『勸進帳』から震災への祈りで締めくくる『千州と桜舞う』の、舞台としての完成度が高かつた。

3回目となったさまざまな古典芸能の多発公演「やとのかめ文化祭」の一つ「能楽堂に舞い唄う 恋は神代の昔から」(11/3 能楽堂)では昨年名古屋市民芸術祭特別賞を得た五條園八王と美佳園の長唄『二人椀久』と西川真乃女の地唄『十二月』が印象に残った。

長唄は、杵屋喜多六主宰「青陽会」(8/3 中電ホール)が50回目の開催、新作長唄『名古屋まつり』が発表された。

社中にジュニアの参加が多い杵屋三太郎主宰「杵三会」(10/4 今池ガスホール)は三味線合奏組曲『徳川家康の生涯』など披露、杵屋六秋、六春は「おやこ会」(11/14 今池ガスホール)で名古屋音楽大学「めいおん長唄三味線ガールズ」の『松の緑』やうねり、をテーマに選曲した『浦島』ほかを演奏した。

小唄の春日とよ恵は、とよ恵実と二人会(10/31 名古屋国際ホテル)、各派も出演、小唄振りも出て華やかなことであつた。

この地域の愛好家が清元榮三を師として集う清元「名楽会」も45回となり、芸どころの余香を伝えた(10/10 中電)。

筑前琵琶の久世旭如は「尾張名古屋に蘇る筑前琵琶・久世旭如リサイタル」(11/15 名東文化小劇場)で名古屋市民芸術祭2015 特別賞(功労賞)を授賞した。

また、古典箏曲、胡弓の名手で、国風音楽会副会長でもあつた南川久子さんが平成27年2月6日に逝去された。冥福をお祈りする。



稲垣流豊美会 長唄「操り三番叟」



「尾張名古屋に蘇る筑前琵琶・久世旭如リサイタル」

美術 ▶ 田中 由紀子(美術批評/ライター)

2015年の名古屋エリアのアートシーンに活況の兆しを呈したトピックスといえば、ふたつのアートセンターのオープンだろう。ひとつは、港まちづくり協議会が港区の商店街の一角にある古いビルをリノベーションし、まちの新たな拠点として10月に開設したMinatomachi POTLUCK BUILDING。ここでは、まちづくりにアートやクリエイティブの視点を取り入れたさまざまなプログラムを展開している。アートに特化した施設ではないものの、エキシビジョンスペースでは、アートプログラム「Minatomachi Art Table, Nagoya」(MAT, Nagoya)が企画・運営を行う現代アートを中心とした企画展を開催。ゲストキュレーターに飯田志保子を迎えた「THE BEGINNING(or Open-Ended)」展、MAT, Nagoyaコミッティーメンバーである美術家、佐藤克久の企画による「絵画の何か」展など、見ごたえのある展覧会に多くのアートファンが足を運んだ。もうひとつは、8月に再始動したアートラボあいちである。2011年8月に長者町に開設されたアートラボあいちは、あいちトリエンナーレに関する情報提供や県内の

芸術系大学と連携した展覧会などを行っていたが、あいちトリエンナーレ2013の閉幕とともに閉館。アートファンだけでなく、まちの人々に地域のアートセンターとして定着していただけない、閉館を惜しむ声が多かつたが、1年後に迫ったあいちトリエンナーレ2016に向けて、長者町と大津橋の2か所で活動を再開した。大学連携プロジェクト「Sky Over I」展を皮切りに、愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、名古屋造形大学による展示が定期的に行われるほか、三田村光土里のプロジェクト「Art & Breakfast Day」や読書会などのプログラム「アトラボラトリー」が実施されている。

美術館の企画展では、植物をモチーフとする新旧の作品と資料をこれまでにない切り口で横断的に展示した、愛知県美術館「芸術植物園」が出色だった。古代の植物文様から江戸時代の花鳥画、東西の草本草学図譜、近代の植物写真、現代アートまでが制作された年代や文脈にとらわれることなく、美術に表現された植物として同列に扱われ、展示されていたのが心地よかつた。

これまでにない横断的な視点という点では、愛知県陶磁美術館「愛知ノートー土・陶・風土・記憶ー」も、500万年前にさかのぼる東海湖関連の土壌・地質・鉱物資料から古瀬戸・古常滑、瀬戸で窯業に従事する人々の姿を捉えた写真や映像、土や陶による現代アートまで幅広く紹介。愛知の豊かな風土を背景に培われたやきものと私たちとの関係を、あらためて捉えなおすことができた。また名古屋市美術館「若林奮 飛葉と振動」は、この作家の最も重要なテーマである「庭」をめぐる作品に焦点を当てた展覧会。自然に対して人間がどうあるべきかについて、制作を通じて問い続けてきた若林の思索に触れることができる好企画だった。

一方、ギャラリーの展示では、展示スペースに研究室を設え、作家とギャラリストが白衣をまっ



Minatomachi POTLUCK BUILDING
「絵画の何か」展示風景 (写真:城戸保)

た研究員のいでたちで、アートとサイエンスの融合を試みたLAD ギャラリー「清水陽子個展」は実験的だった。また、賞味期限切れ香辛料、使用済みボールペン、殺処分予定の愛玩動物など、かつて好きだったものを商品カタログにまとめた、masayoshi suzuki gallery の堅穴式（加藤マンヤ+丹羽誠次郎）「Much Loved」はカタログ自体が次が出れば用済みであり、消費社会に生きる私たちの有り様をアイロニカルに伝えていた。また、See Saw gallery+cafe の板谷奈津「Sweet Home Sweet」は、家族との穏やかな日常に潜むエロスを、一見ほのぼのとした作品でカフェ空間に表出させた、確信犯的な展示だった。



愛知県美術館「芸術植物園」展示風景

文学 ▶ 清水 良典(文芸評論家・愛知淑徳大学教授)

創立30周年記念を迎えた中部ペンクラブが、6月14日盛大に総会を催した。作家の吉村萬壺氏のユーモアあふれる講演とともに、伊藤氏貴、清水信、清水良典三名の文芸評論家による鼎談も行われた。老齢化する同人雑誌、商業文壇との隔たり、産業発展の陰に追いやられる地方の文学環境——、それら困難な課題が話題になったが、清水信は同人雑誌の役割を、弦楽四重奏におけるヴィオラにたとえて、地味でも不可欠な存在価値を説いた。全国でも有数の同人雑誌の活躍拠点である名古屋で、30年にわたって組織を維持し続け、中部ペンクラブ文学賞など毎年多くのイベントを催し、地道に会員を励ましてきた中部ペンクラブの努力を大いに称えたい。



3氏による鼎談の様相

その一方で、小説の募集と映画制作が連動した全国でも珍しい試みだった「ショートストーリーなごや」の公募が、2015年をもって終了することとなった。すでに一足先に終了していた映画制作に続いて、小説部門も第9回までの実施となった。残念ではあるが、入選した多くのユニークな小説と映画が残されて



講演する吉村萬壺氏

いる。そこからはメジャーになった映画監督も出ている。今後は、作品の有意義な活用を望みたい。

2011年の『杉浦明平を読む』(風媒社)以来の明平文学の発掘が、また新たな成果をもたらした。若杉美智子と鳥羽耕史の編になる『杉浦明平 暗夜日記1941—45』(一葉社)である。青年時代の杉浦の、恋に憧れ、書物に憑かれ、戦禍を冷静に見つめる、生々しい日常が甦る。なお補足資料として「文芸中部」100号記念号には、三田村博史による日記原本を参照した異同が発表されている。

主だった出版物では、広小路尚祈の書き下ろし長編『清とこの夜』(中央公論新社)が、老朽団地を舞台にリアリズムの静とシュールな喜劇の動が混じった空間を描いていた。また吉川トリコの『名古屋16話』(ポプラ社)は、名古屋市16区を舞台とした洒落な短編集だった。『氷点』50年記念事業として公募された「三浦綾子文学賞」の候補作となった平井利果の『海萌ゆる』(風媒社)は、福井から北海道へ移住した北前船の船長の娘の一生を描いた長編小説である。海がいつも寄り添う自然描写が美しい力作だった。

雑誌では、毎回秀作が掲載された「じゅん文学」と「文芸中部」が群を抜いていた。

平成27年度 名古屋市芸術賞

平成27年度名古屋市芸術賞は、次の方が受賞されました。「芸術特賞」は、長年にわたり優れた芸術創造活動を行い、かつ、近年における活動が顕著で、名古屋市の芸術文化の振興に大きな功績のあった方に、「芸術奨励賞」は、継続的に活発な芸術創造活動を行い、かつ、将来の活躍が期待され、今後も名古屋市の芸術文化の振興に寄与することを期待できる方に贈られるものです。

芸術特賞

なかた なおひろ

中田直宏

音楽【作曲】 大阪府茨木市在住



昭和37(1962)年東京芸術大学作曲科卒業。卒業作品「バイオリンソナタ」は高く評価され、楽譜が音楽の友社「現代の日本音楽シリーズ」で出版されたが、卒業作品が取り上げられるのは黛敏郎氏に次いで2人目であった。昭和43(1968)年から1年間、愛知県在外研究員としてドイツのミュンヘン国立音楽大学に留学し、その間に作曲した「オーケストラの為の四章」は同年に外山雄三氏指揮の東京交響楽団によって初演された。その後、現在までの作曲活動における主要作品は管弦楽曲、器楽曲、合唱曲等多彩なジャンルにわたり、それらは国内外で度々演奏されている。平成5(1993)年、ロシア作曲家同盟により、唯一の外国人作曲家として選ばれ、ロシア文化省主

催クラスノダール市制200年記念全ロシア現代音楽祭に招かれ、音楽祭期間中、「バイオリンソナタ」をはじめ主要作品の大半が連夜にわたり演奏された。また、国立ロストフ交響楽団を指揮した様子は全ロシアに放映され絶賛を博し、平成6(1994)年度クラスノダール市芸術賞を受賞。オペラでは、これまでに「浜木綿(はまゆう)」「玉手箱かぐやひめ物語」「夕顔の宿」「なよ竹の輝夜(平成17(2005)年佐川音楽賞奨励賞受賞)」等があり、平成27(2015)年の名古屋二期会45周年記念委嘱作品「宗春」では好評を得た。また、大学で後進の育成にも尽力し、門下から優れたアーティストを輩出するなど、これまで当地の芸術文化の振興に果たしてきた功績は多大である。

芸術奨励賞

いとう

伊藤わか奈

音楽【ピアノ】 東京都北区在住



平成14(2002)年に東京芸術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻に入学。同年の第1回名古屋国際音楽コンクールピアノ部門で第3位を受賞するとともに、最年少入賞者に贈られる日本博覧会協会賞を受賞した。その後、平成16(2004)年の第73回日本音楽コンクールピアノ部門で第2位を受賞し、ピアノ部門において最も印象深い演奏をした入賞者に贈られる三宅賞を受賞。平成17(2005)年に、名古屋や東京をはじめ各地でのソロリサイタルを皮切りに、本格的に演奏活動を開始した。平成18(2006)年に東京芸術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻を卒業し、同大学大学院音楽研究科修士課程器楽ピアノ専攻に入学。平成19(2007)年にNHK-FM名曲リサイ

タルに出演し、同年より明治安田生命クオリティオブライフから奨学金を受け、ベルリン芸術大学へ2年間留学し、パスカルドヴァイヨン氏に師事した。平成21(2009)年には第13回ベートーヴェン国際ピアノコンクールでディプロマを受賞。東京芸術大学大学院修了後は、東京芸術大学や国立音楽大学の非常勤講師として後進の育成にも注力している。

平成26(2014)年から名古屋市文化振興事業団の主催により全8回におよぶベートーヴェンピアノソナタ全曲演奏会を開始。第6回までを終え、回を重ねるごとに動員を増やし、好評を博している。今後のさらなる活躍が期待されるピアニストである。

うす いゆうた

碓氷悠太

舞踊【クラシックバレエ】 名古屋市千種区在住



平成4(1992)年からバレエを始め、仁科伶子氏、松岡伶子氏、松岡璃映氏、ナターリヤ・ポリシヤコワ氏、ワジム・グリャーエフ氏、ホルヘ・エスカヴァル氏、リンゼイ・フィッシャー氏に師事。第62回東京新聞主催全国舞踊コンクール バレエ・パ・ド・トゥ部第2位、第11回ザ・バレコン名古屋男子シニア部門第1位、第21回・第22回こづへ全国洋舞コンクール男性シニア部門第2位受賞。

平成11(1999)年にチューリッヒダンスアカデミー、平成13(2001)年にサンフランシスコバレエスクールにはフルスカラシップで、平成14(2002)年にカナダナショナルバレエスクールに留学し、平成15(2003)年に松岡伶子バレエ団に入団。以後、「白鳥

の湖」「眠れる森の美女」「くるみ割り人形」「ジゼル」「ロメオ&ジュリエット」「 Coppélia」など出演したすべてのバレエ団公演で主演を務める。また、平成20(2008)年に新国立劇場バレエ団公演「カルメンby石井潤」では振付家石井潤に主演に抜擢され、平成21(2009)年の新国立劇場バレエ団公演「ライモンダ」でも主演を務めたほか、同年に日本バレエ協会公演「ヤングバレエフェスティバル」で海賊のアリを踊った。平成26(2014)年の法村・友井バレエ団公演「ロメオ&ジュリエット」でも主演を務め好評を得るなど、各地から舞台の依頼を受け出演しており、全国的にも評価が高い。当地域の代表として活躍しており、今後がますます期待される。

ごとう かつゆき

後藤嘉津幸

伝統芸能【能楽・小鼓方】 岐阜県岐阜市在住



昭和50(1975)年に先代宗家の故・幸圓次郎氏に入門以来、現宗家・幸清次郎氏および父・後藤孝一郎氏に師事し、同年に初舞台を踏む。これまでに「石橋(しゃっきょう)」、「狸々乱(しゅうじょうみだれ)」、「道成寺(どうじょうじ)」、「望月(もちづき)」、「隅田川(すみたがわ)」、「卒塔婆小町(そとばこまち)」、「鶯鶯小町(おうむこまち)」など大曲を順次抜く。平成2(1990)年に公益社団法人能楽協会、平成19(2007)年に一般社団法人日本能楽会に入会。

また、平成9(1997)年に若手の能楽師らで「鏡座」を結成し、以来10年間活動。平成16(2004)年の「鏡座」の公演で「道成寺」を上演し、名古屋市民芸術祭賞を受賞した。平成21(2009)年に新たに

「能の旅人」を結成し、千種文化小劇場での公演では円形劇場に八角形の舞台を組み込んだり、丁寧な解説書つきの公演を開催したりするなど、新しい試みにも積極的に挑戦している。

これらの活動のほか、地元岐阜県で開催される夏の風物詩と知られる長良川新能をより楽しむための講演会や、各地域の小学生を対象に和楽器を体験できる講演会などを開催し、能楽を初心者でも身近に感じることができる機会づくりに取り組んでいることに加え、フランス、ドイツ、オランダ、アメリカ、中国、アルゼンチン、チリで海外公演も行っており、能楽の普及・発展に尽力しており、今後のさらなる活躍が期待される。

名古屋市民芸術祭2015

名古屋市民芸術祭賞

名古屋市文化振興事業団では、平成27年10月から11月の2ヶ月間にわたり、全25事業(主催事業5、参加公演20)に及び「名古屋市民芸術祭2015」を開催しました。その参加公演20公演(音楽7、演劇5、舞踊4、伝統芸能4)の中から、特に優秀な公演に「名古屋市民芸術祭賞」を、また、特に表彰に値する公演に対して「名古屋市民芸術祭特別賞」を授与しました。

名古屋市民芸術祭賞(3公演)



11月8日(日)

電気文化会館ザ・コンサートホール

音楽部門

寺本みなみピアノリサイタル

技術的なコントロール能力が優れているうえに、音楽性が非常に豊かであった。ベートーヴェンのピアノソナタ4曲全てを質の高い完成度でまとめあげ、特にプログラム最後の曲、ピアノソナタ第23番「熱情」は圧巻のパフォーマンスをみせ、拍手の渦を巻き起こした。聴衆の心を惹きつける緊張感のある演奏は見事であり、今後の更なる活躍が大いに期待できる。

プロフィール

03年 愛知県立芸術大学音楽学部器楽専攻(ピアノ)卒業
05年 ロンドン英国王立音楽大学大学院修士課程修了
06年 ロンドン・スタインウェイホールにてソロリサイタル開催
ロンドン英国王立音楽大学大学院アーティスト・ディプロマコース修了
08年～11年 パリ市立ジャン＝フィリップ・ラモー音楽院
シャヴィル国立音楽院専属伴奏員

11年 ヴェルサイユ国立地方音楽院最終課程修了
12年～ 昭和音楽大学附属音楽・バレエ教室講師
寺本みなみ・みずほデュオリサイタル開催
14年 ソロリサイタル開催



10月29日(木)～11月1日(日)

G/pit

演劇部門

刈馬演劇設計社PLAN-09「クラッシュ・ワルツ」

簡潔な構成と緊密な会話と繊細な演出で、現代人の内なる世界を巧みに表現し、観客を引き込んだ。不幸な交通事故を巡る人間模様を見事に表現し、人生について改めて考えさせられる作品に仕上げた。人間の本质論を描く重いテーマなのに、ポジティブにとらえられる軽やかな展開によって、清々しい余韻を残す秀逸な作品でもあった。

プロフィール

12年 始動、PLAN-01「悪恋」
13年 PLAN-04「クラッシュ・ワルツ」で、第19回劇作家協会
新人戯曲賞受賞
14年 札幌教文短編演劇フェスティバルで、初の県外公演
PLAN-06「誰も死なない」で、名古屋市民芸術祭
特別賞受賞

15年 PLAN-07「モンスターとしての私」で、劇団初の
ホール公演開催
PLAN-09「クラッシュ・ワルツ」劇団初の4都市ツアー
開始



11月1日(日)

愛知県芸術劇場大ホール

舞踊部門

ゆかりバレエ創立25周年記念公演&定期発表公演Vol.15
第三部「カルミナ・ブラーナ」

高い水準の舞踊表現で、「カルミナ・ブラーナ」の持つ高揚感をダイナミックな躍りで見事に表現した秀逸な舞台だった。再演を重ねることで質を向上させる努力が積み上げられ、バレエ団の代表作とすることに成功しており、神原ゆかりのこの作品に込める強い想いが感じられた。名古屋の男性ダンサーたちの成長が作品に厚みを与えており、彼らの健闘を称えたい。

プロフィール

90年 「ゆかりバレエ教室」設立
94年 名古屋教室(愛知県)開設
01年 名称を「ゆかりバレエ」に変更、以降、毎年定期発表
公演を開催
03年 名古屋市民芸術祭主催事業 JAZZ&MODERN
「チャイコフスキーを踊る」に出演
05年 現代舞踊フェスティバルに2010年まで毎年出演
ゆかりバレエ創立15周年記念公演&定期発表公演
Vol.5で市民芸術祭参加

10年 あいちトリエンナーレ2010現代舞踊協会中部支部
「躍動の祭典」天の鏡」に出演
ゆかりバレエ創立20周年記念公演&定期発表公演
Vol.10で市民芸術祭参加
15年 ののむらあきこ・みはらさちこ企画
「DANCE×音楽×美術×あかり」に出演

授賞式

名古屋市芸術賞、名古屋市民芸術祭賞の授賞式が下記のように開催されました。

日時 平成28年2月1日(月) 15:00

会場 名古屋市役所本庁舎5階 正庁



名古屋市民芸術祭賞



名古屋市民芸術祭賞

名古屋市芸術祭特別賞(4公演)



11月25日(水)
愛知県芸術劇場コンサートホール

音楽部門
(企画賞)

吉田文パイプオルガンリサイタル
Et in Terra Pax～そして地には平和～

「平和と自然」というメッセージが溢れる、コンセプトの明確な演奏だった。独唱・合唱を加えて、珍しい典礼作品を教会でのあるべき姿で表現するという企画も評価できる。また、確かな演奏技術でパイプオルガンという楽器の表現力を十分に引き出し、多彩な音色で抜群の演奏を披露した、聴きごたえのあるリサイタルであった。

プロフィール	88年	17歳でケルン音楽大学カトリック音楽科入学	96年	ドイツ国立ケルン音楽大学オルガン科卒業
	93年	ソロリサイタル開催	98年	ドイツ国家演奏家資格取得
	94年	ドイツ国立ケルン音楽大学カトリック音楽科を卒業、A級オルガニストの国家資格を得る	07年～	コンサートシリーズ「名古屋オルガンの秋」を企画・出演
	95年	オルガン連弾リサイタル開催	11年～	オルガンランチコンサートを企画開催・出演

演劇部門
(総合舞台芸術賞)

演劇ユニットDORAMAYAHONPO第14回公演～15周年記念～
大西信行新作書き下ろし「南町奉行根岸肥前守日記 俄(にわかあめ)雨」

着物の着付け、せりふ回しや仕草など細やかな演出で、本格的な時代劇を高いレベルで上演した。役者の技量も十分で、老若男女が楽しむことができる作品に仕上げた。また、黒衣による場面転換を随時見せる趣向も面白く、ゆったりとした流れにテンポをもたせた。名古屋において、時代劇を創作できる希少な劇団として、今後の飛躍を期待したい。

プロフィール	01年	「あなただあれ?～家族の神話II～」	06年	「A Midsummer Night's Dream～夏の夜の夢～」
	02年	「女殺し油の地獄」	08年	「井原西鶴に依らない 好色一代男～名古屋版～」
	03年	「怪談 牡丹燈籠」	09年	「女の一生 名古屋版～祖父江てつ女の場合～」
	04年	「弟よ～姉乙女から坂本龍馬への伝言～」	12年	「朗読奇席 DORAMAYA亭」
	05年	「天満屋心中 近松門左衛門 心中二枚給草子ほかより」		



10月1日(木)～3日(土)
名古屋市千種文化小劇場

舞踊部門
(奨励賞)

後藤千花ステップ・ワークスバレエ公演

メーンの「美女ヶ原」は日本を題材にした和魂洋才を追求することで、独自性を放つ希少な佳作となり、観客を魅了した。創作バレエを再演することで、作品を磨き上げようとする努力は評価でき、和様バレエの世界を築いた。今後も日本人ならではのバレエの発信と充実を期待したい。

プロフィール	87年	設立、第一回発表会開催	08年	創立20周年記念公演「真夏の夜の夢」
	95年	「月の樞」で名古屋市市民芸術祭受賞	12年	創立25周年記念公演「月の樞」他
	97年	「愛と命の千羽織り」で名古屋市市民芸術祭受賞	13年	芸術創造センター開館30周年記念公演「ラトラヴィアータ」
	01年	「智恵子～わが愛」で名古屋市市民芸術祭受賞	14年	創作バレエ「竹取物語」出演
	02年	創立15周年記念公演「シゼル」		
	04年	名古屋市芸術奨励賞受賞		



10月10日(土)
名古屋市芸術創造センター

伝統芸能部門
(功労賞)

筑前琵琶八洲流初代宗家 安部旭洲招聘百年記念
第二部「尾張名古屋に蘇る筑前琵琶・久世旭如リサイタル」

名古屋における100年の伝統を受け継いだ筑前琵琶の演奏を聴かせるもので、長きにわたり保存・伝承してきた古典芸能を披露する意義深い企画だった。また、伝統を守りつつ、観客の理解を深めるために字幕を用いるなどの見せる工夫を凝らすことにより、古典芸能を普及したいという姿勢が伝わる意欲的な公演だった。

プロフィール	56年	金城学院大学短期学部家政科卒業	03年	筑前琵琶八洲流大教範授与、「旭如」襲名
		以降、県立高校に31年間勤務	11年	環太平洋文化交流ホノルルフェスティバルにて「平家物語」演奏
	78年	筑前琵琶八洲流旭如会の会長就任	13年	愛知銀行 愛銀教育文化財団助成表彰
	95年	中部琵琶連盟理事長就任	14年	名古屋邦楽協会功労者表彰
	99年～08年	リサイタル公演「平家物語」開催		



11月15日(日)
名古屋市名東文化小劇場

「なごや文化情報」に関するアンケートのお願い

右記の質問にご回答いただき、FAX、Emailまたは郵送にて**3月16日(水)【必着】**までにお送りください。ご回答いただいた方の中から**抽選で20名様に名古屋市文化振興事業団の主催事業鑑賞補助券500円分をプレゼント**いたします。

※当選の発表は景品の発送をもって代えさせていただきます。お預りした個人情報につきましては、当該アンケートの事務連絡のみに使用させていただきます。

- 内容について、どう思われますか。
①よい ②まあよい ③あまりよくない ④よくない
- 「なごや文化情報」の中で関心を持つ記事はなんですか。(複数回答可)
①表紙 ②名古屋市市民芸術祭受賞作品 ③随想 ④視点 ⑤この人と
⑥この人と…ズームアップ ⑦ピックアップ ⑧いとしのサブカル ⑨1年をふりかえって
- 今まで「なごや文化情報」をお読みになって感じたことをご記入ください。
- 今後「なごや文化情報」で取り上げてほしい話題や、コーナーがありましたら、ご記入ください。
- ご回答いただいた方の①お名前 ②性別 ③年代(30代など) ④郵便番号 ⑤ご住所 ⑥電話番号

【宛て先】〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目18番1号 ナディアパーク8階
(公財)名古屋市文化振興事業団・文化情報アンケート係
FAX: (052) 249-9386 Email: tomo@bunka758.or.jp

名古屋市文化基金のご案内

感動を育てる種をまこう。

名古屋市では歴史と伝統を生かした個性豊かな市民文化の創造をめざしております。

名古屋市文化基金(名古屋市市民文化振興事業積立基金)は、名古屋市と市民のみなさま並びに名古屋の文化を応援して下さるみなさまとが協力して基金を積み立てるものです。

この基金とその運用によって生まれる利息は、文化振興のための事業にあてられ、大きく役立てられています。

豊かな文化の創造は、人の心に感動を育み、心を豊かにするものと信じます。

基金の趣旨をご理解いただき、ぜひみなさまのご協力をお願い申し上げます。

みなさまからいただいた寄付金は
このような事業に活かされています

参加・交流

市民が参加し、交流できる事業を積極的に展開しています。

鑑賞

優れた舞台芸術を紹介しています。

支援・育成

市民が行う芸術文化活動を支援・育成しています。

情報発信

当地方の様々な文化情報を発信しています。



NAGOYA GROOVIN' SUMMER



ミュージカル「ライト・イン・ザ・ピアッツァ」



ファン・デ・ナゴヤ美術展

ふるさと寄附金(納税)制度について

当基金にご寄附いただいた場合、ふるさと寄附金(納税)制度の適用対象となりますので、寄附金額2千円(適用下限額)を超える部分について、確定申告によって従来からの所得控除のほか、寄附金額5千円(適用下限額)を超える部分について、個人住民税からの税額控除を受けることができます。(名古屋市民の方が当基金にご寄附される場合も対象となります。)

問い合わせ

名古屋市市民経済局文化振興室

TEL : 052-972-3172

公益財団法人名古屋市文化振興事業団

TEL : 052-249-9390

詳しくは、市公式ウェブサイト

文化基金

検索



感動を育てる種をまこう。

名古屋市文化基金

アイデアを広げる
ワンランク上の印刷を

事業内容

- UVコールドフォイル印刷
- UVホログラム転写印刷
- UVコーター付オフセット印刷
- 一般オフセット印刷
- 3D印刷
- バリアブル(可変データ)印刷
- Mac・Win・DTPデータ作成
- B倍プロッター出力

鬼頭印刷株式会社 Tel.052-681-1701 Fax.052-679-1171
〒456-0073 名古屋市熱田区千代田町3-22 data@kito-net.com www.kito-net.com

舞台映像専科

ステージの感動を格調高い映像で追求します。
ハイビジョンで撮影し
ブルーレイディスクでお渡しします。

ビデオソフトの企画制作

有限会社 エーワン・ビデオ・システム
TEL(052)896-2256 FAX(052)896-4100

WE MAKE YOU MOVE
感動をあなたへ

この領域を超えて最高のパフォーマンスを。

20Hz ← → 20kHz

お客様に寄り添った先進のAVシステムを提案する
株式会社 エーアンドブイ
〒464-0846 愛知県名古屋市中区栄三丁目98
TEL/052-761-5400 FAX/052-761-0909

舞台音響・映像設備
設計・施工・保守・特注品製作・業務用機器販売

「ナゴヤ劇場ジャーナル」ではサポート会員を募集しています。

ナゴヤ劇場ジャーナル

◎年間6,480円で毎月お手元にお届けいたします。
◎毎月24,000部発行 ※東海地方の演劇・バレエ・音楽公演、各所顧客DM、他に配布

公演・発表会の受付から制作業務全般まで、何でもご用命下さい

MP MANAGEMENT PRO 株式会社 マネージメント・プロ
〒464-0850 愛知県名古屋市中区千種区今池1-14-11 CASA LUZ302
TEL (052) 735-3151 FAX (052) 735-3152 E-mail : mpoffice@pa2.so-net.ne.jp

業務内容

- ①舞台の企画・制作マネージメント
- ②イベントの企画制作
- ③芸術団体のコンサルティング
- ④舞台・イベントの運営